別紙様式（Ｂ４横型）

学校番号 72

令和２年度　学校自己評価表　（計画段階　・　実施段階）

福岡県立大牟田北高等学校長　　印

学校運営計画（４月）			評価（３月）
学校運営方針	北高“新”時代（北高改革　セカンドステージ）のさらなる進化 ～　組織的、協働的に教育内容の充実を図り、新学習指導要領及び高大接続改革に対応していく　～ 　生徒達は、人生１００年と言われる今日、２１世紀中盤に活躍することを期待されている。本校では、生徒達が自分の夢を持ち実現し新たな夢を追いかける生涯学習のための基礎・基本の定着を図るため次の４項目を重点目標とする。この目標を達成するために、全職員が、組織的、協働的に教育内容の改善、充実に努める。また、定時制・単位制への改編の準備を行うとともに、本校創立１１０周年（令和４年度実施予定）の準備行う。		B
昨年度の成果と課題	重点目標	具体的目標	
平成３１年度重点目標の一つである生徒の第一希望での進路完全実現は、生徒達の努力と全職員によるきめ細やかな指導によりほぼ達成する事ができた。特に公務員合格者は、昨年度を上回るのべ１２名となった。また、就職希望者のほぼ全員が希望事業所等に就職した。本年度は、３年生で６コース制としの特色をいかしながら生徒達の希望進路実現に向けて取組んでいく。 　課題としては、コミュニケーション能力の育成を充実させながら、生徒一人ひとりが大切にされていると実感できる学校づくりを推進していく。広報活動については、教育環境、学校行事及び部活動などの教育活動を掲載するなどホームページを充実する。	カリキュラム・マネジメントの充実を図り、教科指導力を向上させ、「主体的・対話的な深い学び」を実践する。	ア　生徒一人ひとりに対して丁寧に誠実に個に応じた指導を行う。 イ　生徒の自己ベストを引き出すことにより、自立につながる学力を育成する。 ウ　コースのそれぞれの特色に応じた指導を行う。	
	生徒指導力を向上させ生徒の自尊感情（自立）と規範意識（自律）を高め、秩序ある学び舎をつくる。	ア　いじめがなく、安心で安全な学校をつくる。（早期発見、早期対応の実現） イ　生徒の良さを認め、気づかせる積極的生徒指導を推進する。 ウ　地域と協力し多くの体験から思考力を育成する。（ハートフル賞の活用）	
	３年間を見通したキャリア教育を行い、組織的な進路指導を実践する。	ア　キャリアパスポートを活用し体験型のキャリア教育の推進を図る。 イ　総合的な探究の時間を活用し、生徒に将来の夢の醸成に努める。 ウ　生徒の第一希望での進路完全実現を目指す。	
	地域、保護者との連携を深め、共に生徒を育てる環境づくりを推進する。	ア　本校のフレックス型へ改編を地域、保護者に正確に広報する。 イ　高大接続改革を研究し、積極的に広報する。 ウ　ＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）等を通して小・中学校と積極的に連携を図り、 総合的な探究の時間を推進する。	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（３月）			次年度の主な課題
教務部	教務課	教科指導力を向上させ、「主体的・対話的な深い学び」を実践する。	「授業始め」の黙想や挨拶の徹底のために教室掲示を行い、教務オリエンテーションで説明する。	B	B	B	全日制課程と定時制課程が連携、連絡を密にして教育活動の充実を図る。 教務規定の改善を通して、観点別評価を導入する。 Classiを活用してオンライン授業や授業アンケートを実施する。 考査関係のマニュアルを作成して職員の共通認識を図る。 教務部会を月１回を実施、教務部内の共通理解を図る。
			「学び直し」「学力向上のための指導」を実施する。	B			
			授業アンケートを実施し授業改善に努め、「主体的・対話的な深い学び」を推進する。	C			
		教育課程・教務規定の改善を行う等、カリキュラム・マネジメントの充実を図る。	教科主任会・教育課程検討員会等で新学習指導要領及び高大接続改革への対応を図る。	B	B		
			観点別学習状況の評価を組織的に推進していく。	B			
			単位制高校フレックス型改編に向けての準備を推進する。	B			
		地域からの信頼を高めるために、本校教育の特色を発信する。	単位制フレックス型への改編を地域、保護者に正確に広報する。	A	A		
			単位制フレックス型について学校説明会・入試相談会等を実施する。	A			
			ホームページ等を活用して、本校教育の特色を発信する。	B			
	企画運営課	校内業務やスケジュールの連携と調整を図り、「チーム一丸力」を高める。	早めの準備・起案を行う。	B	B	B	評価項目の空欄は、新型コロナウイルス拡大防止のため実施できなかった。 本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため父母教師会活動や広報活動が十分にできなかった。 次年度は、全日制課程と定時制課程が連携・連絡を密にして校内業務やスケジュールの調整を図る。定時制課程の単位制「フレック型」の生徒入学に伴い父母教師会の名称の変更と規約の見直し及び役員選出方法について変更を行う。 ホームページで学校行事や本校の特色、取組を発信し広報活動に努める。 　ボランティア活動等を推進して、中学校や地域との連携を深める。
			関係部署との打合せを綿密に行う。	B			
			旧年度の反省を本年度の実施に活かす。	B			
		中学校や地域との連携を深め、志願倍率１．０倍以上に回復する。	中学校訪問等で生徒の情報交換を定期的に行う。	C	C		
			広報紙やＨＰ等でタイムリーな話題や特色ある取り組みを発信する。	C			
			地域活動を積極的に紹介し、参加・協力する体制をつくる。				
		父母教師会との連携をさらに深め、諸行事の円滑な運営を行う。	本校教育活動を発信する機会を増やし、共有していく。	C	B		
			体育大会運営補佐など学校行事の参加協力体制をつくる。				
			北高鍋、大蛇山総踊りなど、保護者が生徒と触れ合う機会を充実させる。	B			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（３月）			次年度の主な課題
生徒指導部	生徒指導課	学校安全の充実を基本とした自他の安全と生命を尊重する態度の育する。	学校いじめ防止基本方針に基づく取組を行い、いじめの未然防止、早期発見、適切な措置に努める。	A	B	B	規範意識の向上を図り、基本的生活習慣及び道徳教育について継続指導していく。 「いじめアンケート」により生徒の状況を把握するとともに、ネット上の書込みなどを注視し全職員でいじめに対する意識高揚を図る。 全日制課程と定時制課程の連携・連絡を密にして学校行事の内容等の精選と生徒会活動及び部活動の活性化を行う。 交通安全意識を高揚させ、マナーやルールを守ることの大切を継続的に指導する。
			交通安全意識の高揚と事故等防止の実践的態度を育成するため、自転車点検や交通安全教室等を実施する。	C			
			諸犯罪に適切に対応できる態度を育成するために、薬物乱用防止教育や暴力団排除教育等を実施する。	A			
		積極的生徒指導による自尊感情（自立）と規範意識（自律）を向上させる。	日常において、北高スタイルを推進し、校内美化・挨拶や言葉遣い・時間厳守等の態度を身に付けさせる。	B	B		
			校内風紀の維持・向上を図るために、服装頭髪検査を定期的に実施する。	B			
			道徳教育を推進し、学校行事等で明確な目的を持って取り組む態度を育成する。	B			
		「ほめて、鍛えて、生徒の可能性を伸ばす」ことを通した積極的体験的活動の活性化を図る。	生徒会活動や委員会活動及び学校行事において役割や責任を与え、主体的な態度や思考力を育成する。	A	B		
			部活動加入率６５％を達成するために新入生体験入部期間を充実させるとともに、部活動集会等を実施し部活動の活性化に努める。	B			
			奉仕活動等の積極的参加を促し、ハートフル賞表彰者２００名以上を目指す。	B			
	保健課	心身の健康保持・増進に積極的に取り組める生徒の育成に努める。	健康診断の結果を活用し、積極的に受診するなど、生徒自らが心身の健康管理に注意する態度を養う。	A	A	B	全日制課程と定時制課程の連携・連絡を取りながら、検診などの保健関係の行事がスムーズに行なえるよう調整する。 新型コロナウイルス症感染拡大防止に努めるため、手洗い、換気、マスク着用、三密防止などを徹底させる。 美化コンクールなどを行い委員会活動を活性化させる。
			健康診断の結果を活用し、積極的に受診するなど、生徒自らが心身の健康管理に注意する態度を養う。	A			
			「学校生活アンケート」の活用・保健室利用状況分析による生徒の変化を早期に発見する。	A			
		環境美化活動により、学習環境を整える。	毎日の清掃活動の充実を図り、学習環境の整理整頓に努めさせる。	B	B		
			毎学期の美化目標を設定する。また、美化コンクールを実施する。	C			
			ゴミの減量化を目指し、ゴミの分別についてオリエンテーションを行い意識を高める。	B			
		健康的で安全に学校生活が送れるように、健康安全意識の高揚を図る。	危機管理マニュアルの徹底を図り、部活動や授業時における事故やけがの防止と早期対応に努める。	B	B		
			体育的な行事の際に校医による健康相談を実施し、事故防止に務める。	B			
			健康教育推進事業（性と心の健康診断）の実施と効果的な活用を図る。	A			
進路指導部	進路指導課	６コース制を活かし第一希望での進路決定を目指す。	年間３回の進路調査を実施し、自己の進路を考え、担任や保護者との対話の機会をつくる。	A	A	B	進路希望調査や進路ガイダンス等を実施するとともに、オープンキャンパスやインターンシップに積極的に参加させ進路意識の向上を図る。 Classiを授業や個人面談などに活用させていく。 「進路マップ（キャリア教育計画表）」の作成や「キャリアパスポート」などを活用し進路意識を向上させる。 教務や教科主任と連携して魅力ある課外授業の実施に努める。
			模試や実力診断をもとに担任との面談を実施し、学年で情報を共有し、第一希望への意識を強く持たせる指導を行う。	B			
		進路実現のための学力保障ができるような指導体制を確立する。	進路マップを作成、共有することで、年間の見通しのある進路指導を行う。	B	B		
			スタディーサポートや模擬試験を活用し、生徒一人一人の進路指導に反映させる。	B			
			課外受講者が減少している方策として、Classiを導入し、土セミの廃止を検討する。	B			
		生徒・保護者・地域に対する適切な情報発信を行う。	生徒や保護者へ有益な「進路の手引き」を作成する。	B	B		
			時宜に応じた進路情報誌等の依頼・提供を行う。	A			
			ホームページを活用し、進路実績や進路情報等を知らせる。	B			
	研修課	本校の課題に対応した研修を行い、一人一人の資質の向上に繋げる。	十分な時間を確保できるように、考査時に実施する。	A	A	A	新型コロナウイルス感染症拡大防止の中で、オンライン授業やZOOMなど職員がICTを活用できるようにICT関連の研修をさらに充実させる。 研究授業や公開授業を充実させ、スキルアップを図る。 研修課で研修の内容や方法について意見交換を行い、充実した研修を行う。
			生徒の現状や教育課題を考慮した内容を行う。	A			
			ありあけ新世高校との合同研修会を実施して、両校の連携を深める。	A			
		公開授業・研究授業を活性化させ、教科指導力の向上を図る。	公開授業期間に、２回以上他の教師(他教科も含めて)の授業を参観する。	B	A		
			本年度の研究授業は、国語科、数学科、理科が行う。	A			
			学習指導案は授業構想メモを使用し、研究協議会はワークショップ形式とする。	A			
		昨年度までのＯＪＴ研修を引き継ぎ、若年教員の人材育成を行う。	教職経験２、３年の教員に対して、個々の課題に応じた支援を行う。	B	B		
			若年教員対象の研修会を実施する。	A			
			世代間交流ができる研修を実施する。	C			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（３月）			次年度の主な課題
第１学年	自己理解・自己管理能力を高めさせる。	マイノートの活用と面談の確保。	C	B	B	評価項目の空欄は、新型コロナウイルス拡大防止のため実施できなかった。 新型コロナウイルス感染症拡大防止のために実施できなかった行事や学年指導を充実させ、北高生としてのプライドを育成する。 １年次の出席状況は良好であったが、遅刻が増加しているので時間管理能力を育成する。 各教科担当と連携して、家庭学習習慣の定着など生徒の学習スタイル構築を図る。 部活動加入率は、78.3%と高く、生徒の目的意識も高いので継続して指導していく。
		ＨＲや学年集会で自尊感情を育むための講話を盛り込む。	A			
		６割以上の皆勤を果たすため、学期ごとに表彰する。	B			
	人間関係形成・社会形成能力を身に付けさせる。	係活動や清掃は１人１役とする。	A	B		
		部活動加入率８０％、参加率９０％を達成するため、部顧問との連携を強化する。	B			
		北高スタイル第１条「立ち止まって挨拶する」の指導を徹底する。	C			
	課題解決能力・キャリアプランニング能力を身に付けさせる。	「朝の時間」を有効活用するため、計画的に実施する。		B		
		進路指導部と連携し、キャリア教育を計画的に実施する。	B			
		学習ガイダンスを計画的に実施しながら、家庭学習の習慣を身に付けさせる。	C			
第２学年	自己理解・自己管理能力を高めさせる。（主体性）	キャリア・パスポート、マイノートの活用と面談の確保を行う。	B	B	B	評価項目の空欄は、新型コロナウイルス拡大防止のため実施できなかった。 新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、修学旅行、体育大会、文化発表会等の行事が実施できなかったが、次年度は３年生として、リーダーシップを発揮したり生徒達の高校生活が充実したものになるよう行事等を工夫していく。 進路実現に向けてキャリアパスポートやマイノートを活用させるとともに、Classiを生徒が使いこなせるよう指導していく。
		生活の記録を活用し、生活のリズムを整え、目標設定と振り返りによって自ら学ぶ力を付ける。	B			
		５割以上の皆勤を果たすため、学期毎に表彰する。	C			
	人間関係形成・社会形成能力を身に付けさせる。（協働性）	修学旅行の事前準備を充実させ、民泊体験を通してのコミュニケーション能力の向上を図る。		C		
		一人１リーダーを意識させ、積極的に学校行事や部活動等に関わり、満足度８０％を達成する。	C			
		ボランティア活動に積極的に参加させ、奉仕の精神を養う。				
	課題対応能力・キャリアプランニング能力を身に付けさせる。（課題解決能力）	総合的な探究の時間で課題解決型の探究活動を実施し、課題発見・解決能力を身に付ける。	B	B		
		実習やインターンシップを実施し、体験に基づく一次情報の収集を通して社会や職業に関する理解を深める。				
		進路指導部と連携して「進路希望調査」を実施し、進路先や入試に関する知識を深める。	B			
第３学年	自己理解・自己管理能力を高めさせる。	「生徒が生徒から学ぶ」仕組みをつくる。具体的には体育大会のリーダーや部活動の部長などに範を示させ、牽引させる。そのためにリーダーを指導する。	B	B	B	定時制フレックック型の生徒入学に伴い、「個」に応じた教育の充実を一層図っていく。 人間関係形成、社会形成能力を身に着けさせる。また、自己理解・自己管理能力を高めさせる。 進路希望調査や「進路マップ（キャリア教育計画表）」の作成や「キャリアパスポート」を活用し進路意識を向上させる。
		皆勤率５割をめざし、全員に１ヵ年皆勤表彰を目指させる。	C			
		１年間を、体育大会まで、体育大会後から夏休み、夏休みから進路決定まで、進路決定後、の４分割し、それぞれで行動に移せる目標設定をさせる。	B			
	社会形成能力・課題対応能力・キャリアプランニング能力を身に付けさせる。	「進化版一人１リーダー」を掲げる。具体的には「リーダーとしてのリーダーシップ、フォロワーだけどリーダーシップ」を意識させる。	B	B		
		「自己ベスト宣言」をさせる。さらに到達までの段階をスモールステップ化して具体的な行動に結びつけられるようにする。	C			
		「進路決定が最終目標ではない」ことを意識させ、進路決定から卒業までをどう過ごすかについての目標と計画を立てさせる。	B			
	社会で通用する学力と学び続ける力を身に付けさせる。	放課後、学習コーナーでの居残り学習を定着化させる。	B	B		
		長期休業中の学習会を企画し、実施する。	B			
		進路決定後も資格取得に挑戦させ、上位級を取得して卒業させる。	C			
事務部	教育施設環境を充実させる。	生徒の安全を考慮して、施設の維持管理に努める。	B	B	A	全日制課程と定時制課程フレックス型と連絡を取りながら、快適な教育環境の整備に努める。 デジタル化、データ化が可能な業務の検討を行い、さらなる効率化を図る。 今後も予算の適切で、タイムリーな執行に努める。
		教育施設、設備、ホームページの充実を図る。	B			
		教員との連携を深め、より良い教育機器の拡充をする。	A			
	予算の効率的な執行及び適正な会計処理を行う。	生徒募集により結びつくような予算処置配分を行う。	A	A		
		需用費、備品等の購入については、必要性や緊急性を備えているかを考慮する。	B			
		旅費の執行については、必要性を十分確認する。	A			
	接遇の向上させる。	外部の人に対する渉外については、誤解が生じないよう丁寧な説明を心がける。	A	A		
		電話対応では事務室が最初に対応するので正確、迅速に行う。	A			
		職員の対応に当たっては、相手の意見を十分に聴くこと。	A			